

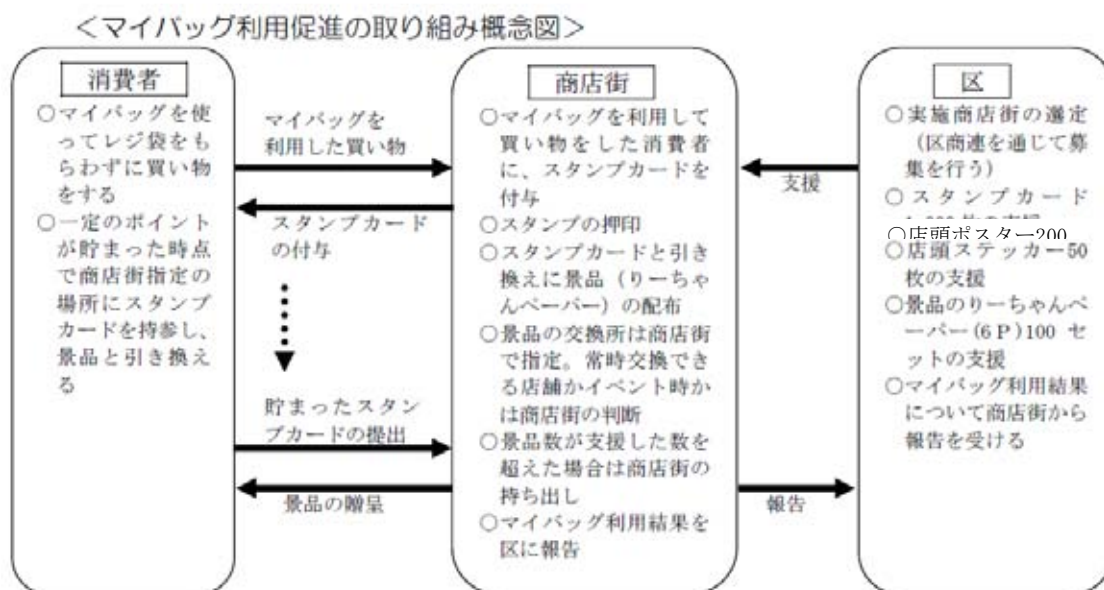
## 1. レジ袋削減への取組の経緯

葛飾区では、平成 15 年度に「かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会」を設置し、広くごみ減量の意識啓発・行動促進を図るため、10 月を『ごみ減量月間』として、区民・事業者・区が協働した取組を展開している。推進協議会では、設置当初より身近にごみの発生抑制に取り組むことができるマイバッグ持参キャンペーンを行っており、会場ではごみの減量に関するアンケート調査の実施と協力を得た方にマイバッグ（買い物袋）の配布を行い、レジ袋削減によるごみの減量を呼びかけてきている。平成 23 年度は 13 会場で実施し、2,536 名の参加者があった。

平成 22 年度からは、商店街で買い物をする際にレジ袋を断った人にスタンプカードに押印を行い、一定のポイントが貯まった時点で景品と交換を行う取組を行っている。この取組を告知するポスターやポイントと交換する景品は葛飾区から支給している。

また、家庭に眠っているマイバッグを使ってもらうために、上述の商店街での買い物の際のポイント付与システムの実施や、マイバッグの普及啓発事業を実施してきている。

### 商店街での買い物の際のポイント付与システムの概念図



（資料）「第 17 回かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会結果」（平成 23 年 7 月 22 日実施）

## 2. レジ袋削減への取組に係る自身の評価

### (1) マイバッグ持参、レジ袋を断ることは習慣化

マイバッグの利用状況、マイバッグの所持枚数等のアンケート調査結果からも、90%を超える区民がマイバッグを利用している実態がよみとれ、マイバッグを持参すること、レジ袋配布を断ることが習慣化してきたと感じられる。

## 平成 23 年度マイバッグ利用状況アンケート結果

【問 1】 お買い物の際にマイバッグ（エコバッグ）を利用していますか。

選択肢	平成 23 年度	平成 22 年度
①いつも（頻繁に）利用している	62.1%	55.0%
②時々利用している	29.7%	31.2%
③利用していない（ほとんど利用しない）	8.2%	13.8%

【問 2】 問 1 で①又は②とお答えいただいた方にお伺いします。マイバッグを利用している理由はどのようなことからですか。（複数回答可）

選択肢	平成 23 年度	平成 22 年度
①割引（ポイント）があるから	52.4%	48.1%
②余分なレジ袋をもらうとごみになってしまうから	54.6%	52.9%
③マイバッグの方が利用しやすいから	27.0%	21.2%
④特に意識していない	6.7%	7.4%
⑤その他	0.6%	2.6%

（資料）葛飾区資料

### （2）商店街でのレジ袋削減の取組により、ごみ減量効果と商店街の意識変化がみられた

お花茶屋商店街（61 店舗）では平成 22 年度・平成 23 年度とマイバッグ利用ポイント制度に参加しているが、平成 22 年度は 10 月 23 日～11 月 20 日の約 1 ヶ月、レジ袋削減に応じてスタンプを押し、スタンプ 30 個で景品と交換できることとしたが、実施期間が短くスタンプカードが一杯になるものが少なかった。しかし、実施前 1 ヶ月に比べレジ袋配布数が商店街全体で 13,195 枚減っており、スタンプの押印結果から 1 店舗当たり 34.4 枚のレジ袋削減効果があったと報告されている。

また、千代田通商店街（約 30 店舗）では平成 23 年 3 月 1 日～6 月 20 日の約 4 ヶ月実施し、スタンプカードを 99 枚回収できた（スタンプ 30 個でスタンプカードが一杯になり景品と交換できる）。こちらの商店街では 1 ヶ月にして 1 店舗あたり 13.3 枚のレジ袋削減効果があったと報告されている。

これらの実証実験を行った結果、実証期間を長く設定しないと、区民に認知されないことを痛感した。そのため、商店街には通年や長期間で実施するよう区から提案・依頼を行っているが、商店街側はスタンプ押印のための手間や景品交換のための人員配置をする必

要がある等、費用や負荷の増大につながることから、通年での実施には消極的であり、あくまでもイベントの一環として一定の期間を設けて実施しているのが実態である。

ただし、商店側の意識も次第に変化してきている。当初、レジ袋削減は大手スーパー等が取組む話であり個別の商店には実施が難しいとの認識もみられたが、実施する中で消費者へポイント制の説明を通じて商店街がごみ減量のPRする機会となっており、商店として協力できることからレジ袋削減に協力していこうとの意識に変わってきている。

### **(3) スーパーでのレジ袋辞退率も高水準に到達**

推進協議会のスーパーからのヒアリング結果によれば、レジ袋辞退率は当初の10%から30%（平成23年12月時点）にまで高まったとのことである。レジ袋の有料化は行わない中での数値であり、かなり高い水準にまで高まったといえる。

## **3. レジ袋削減から新たな取組に展開した経緯、新たな取組に展開できた要因**

### **(1) 推進協議会の中に目的別部会の設置**

平成19年度から推進協議会の中に、「啓発活動部会」「区民活動部会」「事業者活動部会」の3つの目的別部会を設置し（現在は「区民啓発活動部会」「事業者活動部会」の2部会）、それぞれの部会で区民、事業者、行政が協力してごみ減量に関する事項を検討し、取組を行うこととした。この結果、以降に記述した新たな取組が創出された。

### **(2) 「かつしかルール」の制定**

葛飾区の清掃事業を取り巻く状況の変化に対応し、さらなるごみ減量・リサイクルの取組を推進し資源循環型社会の構築を目指すため、平成23年4月、「葛飾区一般廃棄物処理基本計画（第3次）」が策定された。この計画の中で、区民、事業者、区の三者それぞれが適切に役割を果たし、できるだけごみを発生させない生活スタイルや事業活動を定着させていくことが必要であることから、葛飾区の区民や事業者みんなで取り組むことを呼びかける「かつしかルール」を作ることとなった。このかつしかルールはかつしかごみ減量・リサイクル推進協議会が葛飾区全体でごみ減量やリサイクルに取り組んで欲しい事柄について取り上げ、実施していくこととしており、取組テーマを徐々に増やしていきたいと考えている。

## **4. 新たな取組の詳細**

### **(1) 小売業者における「ばら売り」や「量り売り」の推進**

推進協議会区民活動部会では、発足当初は容器包装の発生抑制策についての検討を行う

こととなった。平成 20 年に区民向けに区民団体が『こういった商品には容器包装は要らない』というアンケート調査を実施した結果、回答者の 7 割以上が不要と考える容器包装がかなりみられた。

そこで、推進協議会区民活動部会から、平成 21 年 7 月 16 日に「不要な容器包装の削減について 提案書」が出され、回答者の 7 割以上が容器包装は不要と回答したものについては「ばら売り」や「量り売り」で販売してもらうよう、小売業者に呼びかけた。

### 不要な容器包装のリストアップについて（個別集計結果）

○ 9 割以上が容器包装は不要と回答したもの

#### 《野菜》

だいこん、かぶ、枝豆、カリフラワー、ブロッコリー、うど、はくさい、レタス、キャベツ、柚、かぼす、すだち

#### 《果実類》

レモン、グレープフルーツ、甘夏、ネーブル、洋なし、かき、梨、りんご、マンゴー、パイナップル、メロン、すいか

○ 7 割以上が容器包装は不要と回答したもの

#### 《野菜》

にんじん、さつまいも、やまいも、長いも、きゅうり、かぼちゃ、とうもろこし、ふき、セロリ、アスパラガス、ねぎ、わけぎ、ほうれんそう、こまつ菜、しゅんぎく、にら

#### 《果実類》

はっさく、バナナ、パパイア、キウイ

（資料）かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会区民活動部会「不要な容器包装の削減について 提案書」（平成 21 年 7 月 16 日）

小売業者側の「ばら売り」の実施状況を把握すべく、平成 23 年 12 月に推進協議会加盟の小売店 15 箇所に対してアンケート調査を行った。その結果、だいこん、キャベツ、グレープフルーツ、りんご、パイナップル、さつまいも、きゅうり、キウイの 8 品目は調査全店がばら売りを実施していることを確認できた。区民活動部会のアンケート調査で 9 割以上の方が容器包装を不要と回答した商品全体では 72.1%がばら売りを実施しているものの、品目間でばら売り率にはばらつきがみられる。また、店舗間でもばら売りの実施率にばらつきがみられた。この結果を受け、今後とも引き続き、小売店側にはばら売り推進を要請していくこととなった。

かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会で容器包装をしないとした商品現況調査結果(平成23年12月)

区民生活動部会 でのアンケートが不要とした商品の包装をされた商品	バラ売り率	容器包装をしている					取り扱っていない
		カット売り	要重さの表示	必要な表示	品質保持に必要	その他	
だいこん	100%	84%	0%	0%	18%	0%	0%
かぶ	82%	0%	0%	0%	27%	0%	0%
枝豆	36%	0%	9%	36%	18%	18%	9%
カリフラワー	64%	18%	0%	0%	36%	0%	0%
ブロッコリー	91%	18%	0%	0%	18%	0%	0%
うど	36%	9%	9%	0%	27%	27%	9%
はくさい	64%	64%	0%	0%	27%	9%	0%
レタス	45%	45%	0%	0%	45%	36%	0%
キャベツ	100%	55%	0%	0%	27%	9%	0%
柚	91%	0%	0%	0%	9%	18%	0%
かぼす	55%	0%	0%	9%	27%	9%	9%
すだち	55%	0%	0%	9%	27%	9%	9%
レモン	91%	0%	0%	0%	18%	18%	0%
グレープフルーツ	100%	0%	0%	0%	9%	9%	0%
甘夏	73%	0%	0%	0%	18%	36%	9%
ネーブル	82%	0%	0%	0%	9%	27%	0%
洋なし	91%	0%	0%	0%	18%	27%	0%
かき	91%	0%	0%	0%	18%	36%	0%
梨	91%	0%	0%	0%	18%	18%	9%
りんご	100%	0%	0%	0%	9%	36%	0%
マンゴー	82%	0%	0%	0%	27%	9%	9%
パイナップル	100%	55%	0%	0%	0%	0%	0%
メロン	82%	36%	0%	0%	9%	9%	0%
すいか	82%	73%	0%	0%	0%	9%	9%

区民生活動部会 でのアンケートが不要とした商品の包装をされた商品	バラ売り率	容器包装をしている					取り扱っていない
		カット売り	要重さの表示	必要な表示	品質保持に必要	その他	
にんじん	82%	0%	0%	0%	27%	45%	0%
さつまいも	100%	0%	0%	0%	9%	45%	0%
やまいも	45%	0%	18%	0%	36%	45%	0%
長いも	27%	27%	18%	0%	45%	36%	0%
きゅうり	100%	0%	0%	0%	18%	55%	0%
かぼちゃ	36%	73%	18%	0%	36%	9%	0%
とうもろこし	91%	0%	0%	0%	9%	18%	9%
ふき	45%	9%	0%	9%	36%	9%	18%
セロリ	45%	9%	0%	9%	64%	9%	0%
アスパラガス	91%	0%	0%	0%	9%	9%	0%
ねぎ	91%	18%	0%	0%	18%	27%	0%
わけぎ	55%	0%	0%	0%	36%	55%	0%
ほうれんそう	45%	9%	0%	9%	55%	36%	0%
こまつ菜	55%	9%	0%	9%	45%	36%	0%
しゅんぎく	27%	9%	0%	0%	55%	36%	0%
にら	55%	0%	0%	0%	45%	36%	0%
はっさく	82%	0%	0%	0%	0%	64%	9%
バナナ	64%	0%	0%	0%	36%	55%	0%
パパイヤ	55%	9%	0%	0%	27%	27%	9%
キウイ	100%	0%	0%	0%	9%	45%	0%
90%以上の商品	78.4%	18.2%	0.8%	2.3%	19.3%	15.5%	3.0%
70%以上の商品	64.5%	8.8%	2.7%	1.8%	30.9%	35.0%	2.3%
指定商品全体	72.1%	13.8%	1.7%	2.1%	24.6%	24.4%	2.7%

(資料) 葛飾区資料

## (2) 「かつしかルール」に基づく具体的な取組としての『雑紙』への取組

葛飾区では、平成 23 年以前からも『雑紙』の区分で区民に分別を依頼していた。しかし、近年のごみ組成調査結果からも、燃やすごみの約 14%が“リサイクルできる紙”となっており、『雑紙』の分別徹底を図り、リサイクルできる紙のリサイクルを推進していくことを葛飾区の区民や事業者みんなで取り組むことを呼びかける「かつしかルール」の取り組み事項として、かつしかごみ減量・リサイクル推進協議会が位置づけた。

そのため、ごみ減量月間の各種キャンペーン実施時に、以下の啓発資料をマイバッグに入れて配布することや、区の広報誌を通じた雑紙分別排出の PR を行ってきている。また、ごみカレンダーの中に、雑紙の記載を加えている。

## (3) リユース食器のレンタル

葛飾区は、平成 22 年度から、NPO 法人などで貸出をしているリユース食器を使用し、延べ 100 個以上の飲食物を提供する地域のイベントを実施した際、リユース食器借用に係る費用の 2 分の 1 (限度額 2 万円) を補助している。

ただし、使い捨て容器を使用したほうがリユース食器をレンタルするよりも安価になる場合があることや、イベント主催者側が自身の活動資金に充当させるために行うことも多

く、そのような場合は、リユース食器のレンタルよりも使い捨て容器を使用することになりがちである。また、焼きそば等を持ち帰って食べたいという需要も少なくなく、このような持ち帰り需要には使い捨て容器で対応せざるを得ない。さらに、町会の説明会等でのレンタルシステムの利用を呼びかけると、リユース食器の回収に手間がかかるのが負担との声もある。

現在までに、葛飾清掃工場のイベント（ごみ減量・清掃フェア）やわんぱく相撲で町会等がリユース食器を使用しているが、イベント実施者側へのリユース食器レンタルの広がりが当座の課題である。

## 5. その他特記事項

・リサイクルは分別排出したものが最終的に有効利用されることで、区民にとって取組んだことの達成感を味わうことが可能である。一方、発生抑制は区民が取組んだことの効果を実感しづらく、発生抑制への取組に係る普及啓発には苦勞する。

・レジ袋の有料化に向けた議論は、推進協議会発足当初から行われてきた。マイバッグ利用状況アンケート調査からも、レジ袋が有料（5円程度）になった場合、「レジ袋をもらわないでマイバッグなどを利用する」への回答割合が76.3%に上るなど、レジ袋有料化の実施に伴う削減効果を期待する声も少なくない。一方で、スーパーマーケット側は、レジ袋有料化に伴う売上減少懸念を示し、レジ袋有料化には消極的な意見が多い。マイバッグ利用状況アンケート調査で「レジ袋が有料でないお店での買い物をする」への回答割合は5.6%ある点から、近隣区への固定客流出懸念を表明している。